

令和7年度 西中学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立西中学校		校長名	三浦 徹也	
学級数	22	児童生徒数	591名	職員数	45名
教育目標	「社会で自己実現を図るため、自分で考え行動できる生徒の育成」【ゴールイメージ】 『学校が好きな生徒の割合100%』をめざす ☆人間力あふれる生徒の育成 ～基本的な知識・技能、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力、自己肯定感 や思いやりの心などの育成～				

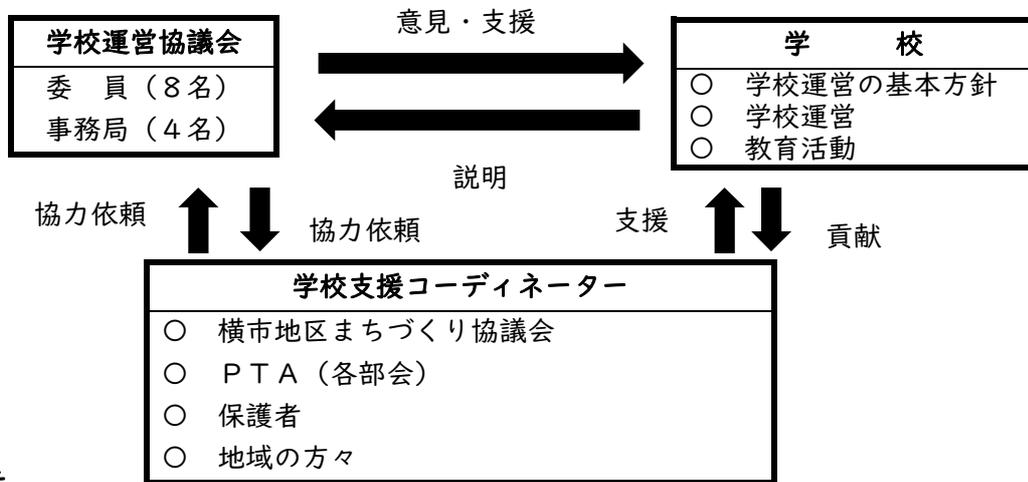
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（計8名）・事務局（計4名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考
	1	市議会議員	赤塚 隆志	会長
	2	主任児童委員	森山 和江	副会長
	3	横市まち協会会長	柏木 健一郎	委員
	4	下菟原公民館長	下原 政広	委員
	5	地区青少協会会長	川崎 和也	委員
	6	都原こども縁長	濱畑 愛	委員
	7	西中PTA会長	小山田 誠	委員
	8	地区青少協委員	森山 数也	委員

事務局	役職	氏名
	校長	三浦 徹也
	教頭	衛藤 卓哉
	教務	横山 健二
	事務主事	松永 萌名美

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員の人選・依頼
4/18（木）	・コミュニティ・スクール（都城市学校運営協議会制度）説明会 [オンライン]
6/3（火）	・第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の説明、学校経営説明）
7/31（木）	・第2回学校運営協議会（三校合同学校運営協議会、意見交換）
12/4（木）	・第3回学校運営協議会（学校の現状と課題（働き方改革）、学校評価項目の確認）
1/15（木）	・第4回学校運営協議会（学校の現状と課題、学校評価の分析と考察）
2/12（木）	・第5回学校運営協議会（学校運営協議会委員の評価と考察）
3月	・次年度に向けての準備

※その他、月1回のオープンスクールデイを実施している。

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

7月：横市地区合同あいさつ運動強化週間（毎月第1週）を実施することが決定

・横市地区まちづくり協議会に協力をいただき、地区住民へのポスター（西中生徒制作）の配付、横市地区生徒指導連絡協議会の協力で、のぼり（西中生徒に図案・標語を募集）を制作し、9月から継続的に実施している。小中合同あいさつ運動にもつながっている。

12月：不登校対策

・学校の独自工夫のSSR（さくらサポートルーム）の見守りへの地域（民生委員等）の協力体制の構築、都原児童館の図書館の開放などの協議を行った。

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ スペシャルサポートルーム（本校では、SSR：さくらサポートルーム）への支援依頼
今年度は、教室には入れない生徒の支援のために、SSR（さくらサポートルーム）を開設している。しかしながら、職員も授業や事務もあり、常に生徒につけるわけではない状況である。そこで、学校運営協議会や民生委員の皆様と相談し、サポート体制を模索中である。校外ではあるが、次年度に向けて都原児童館の図書室とのコラボレーションも検討中である。

○ 花の苗の贈呈

今年度も、横市地区まちづくり協議会から花の苗をいただき、PTA役員が苗植えを行ったプランターを学校まで運んでもらい、卒業式に向けて花の世話を生徒が行っている。

○ 部活動改革の支援

職員の負担軽減のために、外部指導者増員に向け、人材推薦・紹介を相談してきた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 今年度も、全職員での特別支援学級の教科指導（インクルーシブ教育）を実施している。学校運営協議会内でも話題にし、通常学級における支援のあり方も含め協議し、アドバイス等をいただいている。

○ 働き方改革をテーマに協議の場を持ち、様々な視点からの意見交換がなされた。

○ 学校評価の説明及び委員の評価を通して、次年度に向けての協議を行った。

○ 生徒の普段の様子を知っていただくため、ホームページ、Sigfy等での情報発信を行った。

○ 今年度も、月1回程度、オープンスクールデイで参観してもらい、アンケートも含めた意見交換、アドバイスをいただいている。

(3) 地域貢献活動

本校はボランティアサークル「さくらの森」を中心に、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。横市地区まちづくり協議会主催の「夏祭り」や「横市地区まつり」等、ボランティア活動が昨年度以上に活発に行われた。横市地区まつりでは、生徒が企画・運営に参画する場もいただいた。また、ごみゼロ運動（登下校時の通学路のごみ拾い活動）も地域貢献の取組と継続して実施されている。さくらの森、生徒会を中心として、スポーツゴミ拾い大会を実施しているが、今年度は横市まつりとタイアップし、西中の生徒と保護者、西小の児童と保護者に輪を広げて実施した。次は、地域の方々とも協働できないかを視野に検討していく。また、本校の強みの「あいさつ」を前面に出し、3校合同の学校運営協議会において、毎月第1週を「横市地区あいさつ運動強化週間」として、のぼりやポスターを作成し、地域をあげたあいさつ運動を展開している。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 例年以上にボランティア活動の校外での活動の場が増え、参画する機会を得られた。
- 学校の現状を踏まえ、働き方改革、不登校生対応の意見交換を行うことができた。
- 学校が把握しきれていない地域の情報を得ることができ、生かすことができた。
- 家庭教育に関して、保護者や地域への啓発活動の一役を担っていただいている。
- 地域の方に教育活動に継続的・持続的に参画してもらえようような企画・運営が必要であり、さらに地域に根ざした学校づくりを推進する必要がある。
- これまで以上に、双方向で地域と学校が課題を共有し、解決を図る組織づくりが必要である。
- 家庭教育や、学校の働き方改革に関する理解が十分でない。そのための保護者や地域への啓発活動のあり方、学校運営協議会の支援体制を整備していく必要がある。特に、学校に足を運んでもらえていない保護者へのアプローチをどうするかが鍵であると捉えている。

7 次年度の方向性

- 新校時程の施行に向け、モジュールの中身や、効果的な教育課程の編成に向け、PDCAサイクルでよいものにしていく必要があり、学校運営協議会のアドバイスも十分に取り入れていきたい。
- 働き方改革、不登校生対応についての協議を継続し、具体的な実施に結びつけていく。
- 西小及び明和小との連携を図り、横市地区の課題の共有を図り、提言ができるような会の運営を計画していく。また、オープンスクールデイをさらに地域に浸透させ、保護者・近隣学校の職員、民生委員との連携以外にも、さらに地域に連携の輪を広げていく。